

# DPRI NEWSLETTER

102  
2023.1

特集  
02

## 未来につなげる防災研究 —— 防災研学生の研究生活・キャリアパス



### 座談会

—— 大学院ってどんなところ？ 防災研で何をしている？

齋藤 溪太／佐藤 笙子／澤田 尚樹／チョイ ギュチャン

### 卒業後のキャリアパス

土木系学生の進路 —— 発注側・ゼネコン・コンサルタント

澤田 純男

行政 —— 日本から世界へはばたけ

角 哲也

インフラ —— 土木、防災そして鉄道維持管理へ

有吉 望

地方自治体 —— 地味だけれども、地道に取り組む

小西 慶哉

アカデミア —— 興味の赴くまま動いた結果…

中居 楓子

Web系エンジニア —— インターン経験と気象研究

岡崎 康平

### 連載

- 08 災害レビュー 山 泰幸  
韓国ソウル群集事故〈梨泰院惨事〉—— 事故現場からのレポート
- 09 若手研究者から ⑱ 山本 浩大  
防災・減災に向けた国内外の洪水氾濫予測の高度化
- 10 世界と結ぶ ⑨  
言葉で旅する情の国イタリア 伊藤 恵理  
初の海外渡航で感じた日本との違い 藤田 翔乃
- 11 新スタッフ紹介  
DPRI 掲示板 行事予定／受賞・表彰／人事異動
- 12 研究室紹介 ③ 社会防災研究部門防災技術政策研究分野（佐山研究室）  
編集後記



京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University



## 座談会 大学院ってどんなところ？ 防災研で何をしてる？

防災研の修士課程に在籍している大学院生4名に学生生活について語っていただきました。

大学院での過ごし方や、大学院生が日々考えている事柄をのぞいてみましょう。

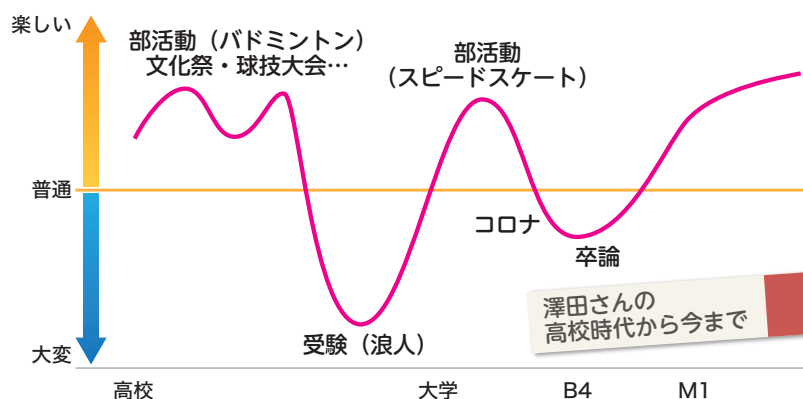
齋藤 湊太さん（耐震基礎研究分野 M1）  
佐藤 笙子さん（沿岸災害研究分野 M2）  
澤田 尚樹さん（災害気候研究分野 M1）  
チョイ ギュチャンさん（地盤防災解析研究分野 M1）

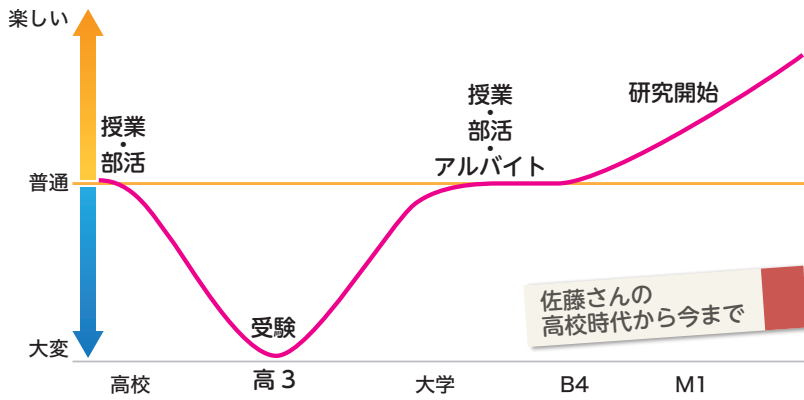
—— 防災研を選んだ理由と、今まで大変だったことや楽しかったことは？

澤田 学部時代は京大の総合人間学部にいました。「バイオリギング」という分

野に出会ったのが防災研に来た理由です。海鳥にカメラやGPSをつけて行動データをとるのですが、僕はその研究グループからデータもらって気象との関係を

調べています。フィールドワークに出かける機会が多くて刺激があります。新潟の離島で鳥を見たり、10日間船に乗ったりしたこともあります。こうした出張の際に





は、現地のおいしい食事を楽しめることもご褒美です。



**チョイ** 文科省の奨学金で大学院から日本に来て、地盤工学の分野で有名な今の研究室に入りました。活発に成果を出している研究室なので、私もがんばればいい成果を出せるのでは、と期待しています。日本語は自分で半年間勉強したら話せるようになりました。研究室には中国やブータンなどいろんな国から来ている人がいるので、みんなと仲良くして研究室生活を楽しくするようにしています。



**齋藤** 中学卒業後に高専に進んで以来、土木を専攻しています。高専5年生のと

きの研究が評価されて「もしかして研究って楽しいかも?」と、大学院進学を考え始めました。防災研を選んだのは今いる研究室に行きたかったから。高専では大学卒業資格まで取れるので、このときの大学院入試が自分にとってはじめての受験で、すごく大変でした。311がこの分野に関心を抱ききっかけでしたが、防災は研究の重要性がわかりやすいのでとっつきやすいです。大学院生活では、コードがうまく書けたり、想定通りの結果が得られたり、そんなちょっとしたことが面白いと思っています。

**佐藤** 自宅からの通いやすさで防災研を選びましたが、今は研究が面白くて、グラフを人生史上いちばん「楽しい」にしました。大学受験は大変でしたが、その後は学部ของときに苦手だった水理学が今の自分の研究に意外と役立ってくるなど、右肩上がりにどんどん面白くなっています。博士課程は北米の大学院に進学したくて出願の準備中です。多くの場合日本のように試験ではなく、人とのつながりとエッセイの内容とで合否が決まるので、国際学会でいろいろな研究者や学生と知り合うように努めています。

#### —— 一日の過ごし方は？

**チョイ** とても大変だった韓国での兵役時代に比べると、今は楽しく過ごしています。夜10時ころまで研究室にいたことが多いですね。だからといってずっと根を詰めているわけではなく、適

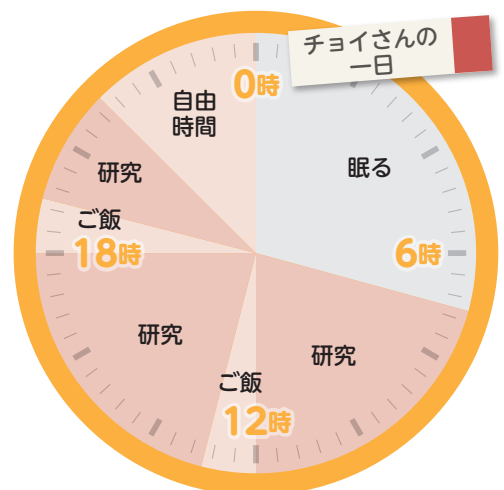


度に気分転換をしながら集中するべき時は集中する、といった感じで、マイペースで研究を進められるのが良いところです。他のメンバーも同じように研究をしていて、研究室にるのが居心地いいです。

**齋藤** 防災研のすぐ近くに部屋を借りて住んでいます。研究は自宅より研究室でやる派で、10時から18時ころは研究室にいます。研究室では研究を、自宅では就活などの個人的な作業や自由時間を、というように場所によって仕事を分けています。

**佐藤** 実家から通学しているので、高校時代から生活環境がそれほど変わっていません。研究室の人たちの多くは午前中には研究室に来るので、お昼をいっしょに食べに行くなど楽しく過ごしています。

**澤田** ロードバイクで片道1時間かけて通学しています。研究室では、お弁当を持ち寄ってみんなでお昼をいっしょに食べる文化があるので、僕も自分で作って



持っています。京大吉田キャンパス付近に住んでいる人も多いので、宇治からの終電の都合で帰りはあまり遅くはなりません。先生も「ちゃんと家で寝るのは大事だよ」と仰っていて、守るようにしています。

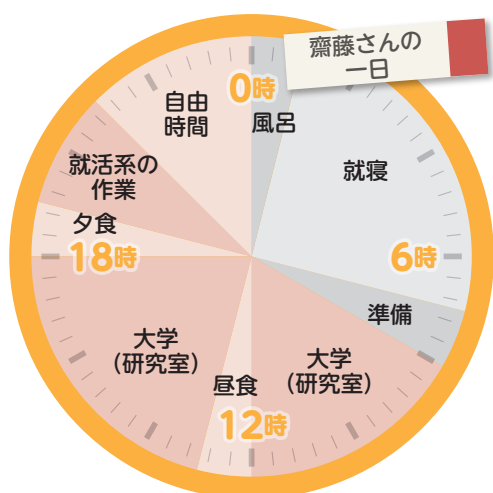
#### —— 将来の目標は？

**佐藤** 機会があれば沿岸災害分野の専門家として海外で働いてみたいです。

**澤田** 航空会社で気象の分析をするスペシャリストになれたらいいな、と就活をしています。

**チョイ** 修士の2年間で得られる知識はまだ少ないので、まずは博士課程に進学するのが目標。

**齋藤** 高専時代からずっと土木研究をしてきたので、今度は社会実装に取り組む立場になりたい。



#### 防災研卒業生の進路（一部）

**【大学・研究所等】** 茨城大学、大阪大学、岡山大学、関西大学、岐阜大学、九州大学、京都工芸繊維大学、京都大学、近畿大学、熊本大学、慶應義塾大学、神戸大学、信州大学、筑波大学、東京工業大学、東京大学、東邦大学、東北大学、鳥取大学、豊橋科学技術大学、名古屋大学、名古屋工業大学、新潟大学、兵庫県立大学、広島工業大学、防衛大学校、北海道大学、立命館大学、アウスブルグ大学、カターニア大学、カリフォルニア大学パークレー校、コスタリカ大学、上海交通大学、ジョージア工科大学、スイス連邦工科大学、清華大学、ダッカ大学、天津大学、ミシガン大学、メキシコ自治大学、モントリオール理工科大学、宇宙開発事業団、海洋研究開発機構、気象研究所、建築研究所、港湾空港技術研究所、国際協力機構（JICA）、産業技術総合研究所、森林総合研究所、鉄道総合技術研究所、電力中央研究所、統計数理研究所、防災科学技術研究所、理化学研究所

**【行政】** 海上保安庁、気象庁、国税庁、国土交通省、総務省消防庁、特許庁、防衛省、米国海洋大気庁（NOAA）、愛知県、石川県、愛媛県、大阪市、滋賀県、東京都、徳島県、池田市、和歌山市、横浜市

**【企業】** 朝日航洋、アクセンチュア、伊藤忠テクノソリューションズ、ウェザーニューズ、NTTコミュニケーションズ、NTTコムウェア、NTTデータ、NTTドコモ、NTT都市開発、NTT東日本、大阪ガス、大阪メトロ、大林組、奥村組、オリエンタルコンサルタンツ、鹿島建設、関西電力、川崎重工業、技研製作所、近畿日本鉄道、構造計画研究所、神戸製鋼、五洋建設、サイバーエージェント、JR貨物、JR総研、JR東海、JR西日本、JR東日本、清水建設、住友金属、住友重機械工業、西濃運輸株式会社、全日本空輸、損害保険ジャパン、ティアフォー、大成建設、大豊建設、大和ハウス、竹中工務店、中国電力、中部電力、テレビ大阪、電源開発、電通、東亜建設工業、東京海上火災、東京電力、戸田建設、東北電力、トヨタ自動車、成田空港会社、南海電気鉄道、日揮、日建設計、日本IBM、日本気象協会、日本経済新聞、日本工営、日本総合研究所、日本製鉄、日本電気、日本ユニシス、NEXCO西日本、野村総研、パンフィックコンサルタンツ、パナソニック、日立製作所、日立造船、富士通、丸紅、みずほ監査法人、三井住友海上、三井物産、三井不動産、三菱地所、三菱重工業、三菱商事、三菱総研、三菱東京UFJ銀行

## 卒業後のキャリアパス 教員からのアドバイス

## 土木系学生の進路

—— 発注側・ゼネコン・コンサルタント

土木業界は大きく分けて、発注側（役所等）、施工側（ゼネコン）と、設計側（コンサルタント等）の3つに分類できます。京大土木全体では、最近では圧倒的に発注側に就職する学生が多く、ゼネコンやコンサルタントに就職する学生は少なくなっています。そこで当研究室では、配属された学生を良く観察して、できるだけ本人に「役所向き」か、「ゼネコン向き」か、「コンサル向き」かを伝えることにしています。どのような学生がゼネコンに向いているかというと、体力のある運動会系だと考えられがちですが、実はコミュニケーション能力に優れている学生なのです。それは仕事の規模が大きいので、多くの関係者との調整が最も大事な業務だからです。ところが最近ではコミュニケーションの得意な学生

澤田 純男  
地震防災研究部門耐震基礎研究分野 教授



は少なくなっており、そういった意味でもゼネコンに就職する学生が少なくなっていることは理解できます。

ちなみに、当研究室の学生の就職先は、コンサルタント等が一番多く、ゼネコンと発注側が同程度かと思います。自身がおこなった研究が面白いと感じた学生がコンサルタントに就職する傾向が強いです。ゼネコンで大きなモノを作る楽しさも理解してもらえるように努力しています。過去にゼネコン向きとは思われない学生が、それを伝える前にゼネコンに就職を決めてきたことがあったのですが、彼は就職後しばらくして退職することになりました。学生にとって自身の性質に合ったところに就職するのが一番大事だと感じています。

## 行政 —— 日本から世界へはばたけ

防災研に配属された学生さんの進路に、国土交通省、経済産業省、気象庁などの中央省庁や、都道府県などの地方自治体があります。工学系の場合は、国土交通省の河川系、道路系、都市系、港湾・空港系などの分野で仕事があります。最近のトピックスには、気候変動を考慮した流域関係者の連携による水害対策（流域治水）や、コンパクトなまちづくりと持続可能な地域公共交通ネットワークの実現、また、観光立国の推進、デジタル技術を活用した3D都市モデリング、ドローンや自動運転などを活用した新たなモビリティサービスの開発などがあります。国土交通省からは、外務省の在外大使館に派遣されたり、国連、世界銀行、アジア開発銀行な

角 哲也  
水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域 教授



どの国際機関で仕事をする機会もあります。また、JICAなどに初めから就職して世界を巡る人もいて、多様なキャリア形成が可能です。行政機関の強みは、社会を俯瞰して視る目を養うことができること、多様な人脈を形成することができること、その上で、民間を含めた世の中の組織や人・モノ・技術を総動員して社会的課題に取り組む、いわばオーケストラの指揮者のような人生を経験できることです。是非、あなたもチャレンジしてみてください。



日本のODAで建設されたインドネシア・ジャワ島のスタミダムの再開発プロジェクト協議

## 卒業後のキャリアパス 先輩たちの経験

### インフラ

#### ——土木、防災そして鉄道維持管理へ

私はJR東海の投資計画部で、東海道新幹線の線路・土木構造物（レール、橋など）に関する設備投資施策の計画を適切に判断し、計画をとりまとめる業務を行っています。

私が土木を志したきっかけは、高校生のときに発生した東日本大震災でした。防災や復興の基盤である土木を学びたいと考え、地球工学科に入学しました。土木とは土木構造物のための工学というだけでなく、より良い社会を築くための社会的な営みそのものである、と大学で学んだことで今の自分があると考えています。

研究室は防災研究所の沿岸災害研究分野を選択し、温暖化によって台風や高潮がどれだけ強度を増すかを研究しました。ハイレベルな環境下での研究生生活で、将来我々はどうようなリスクに備える必要があるのかを考えさせてくれました。

有吉 望

東海旅客鉄道株式会社総合企画本部投資計画部  
気象・水象災害研究部門沿岸災害研究分野／工学研究科社会  
基盤工学専攻 2018年3月修士課程修了



就職活動では、より良い社会を築く決意でJR東海に入社しました。災害への備えは鉄道の課題であり、防災施策を判断する際は防災研究の素養が役立っています。また、JR東海が建設を進めているリニア中央新幹線は大規模災害への抜本的な備えでもあり、私も今後携わりたい分野です。

これまで人生の岐路では興味のある道を選んできましたが、今の仕事はやりがいがあり充実しています。もし進路に迷われたときは、自分の興味のあることに目を向けてほしいと思います。



私自身も工事監督を経験した、東海道新幹線の安全をさらに高める工事の一例

### 地方自治体

#### ——地味だけれども、地道に取り組む

私が高校1年生の時に東日本大震災が発生しました。私は被災したわけではありませんが、高校生の私にとって震災の報道は衝撃的でした。それまでも“災害”に興味を持っていましたが、その興味が一層強いものになりました。

防災研では、住民の方と関わる形で防災の取り組みを行っていました。将来被害にあうと分かっている、自分事には感じられない災害について、どのようにすれば興味を持ってもらえるのかを常に考えていた気がします。

そして今私は滋賀県に就職し、県管理河川の維持管理に関わる仕事をしています。川の流れの妨げになる樹木を切ったり、川にたまった土を取り除く工事をしたりと、やっていることは地味（おそらくこの誌面に登場される方の中で一番地味だと思います(笑)）ですが、大雨のたびに住民さんから「ありがとうございます」と声をかけていただい

小西 慶哉

滋賀県南部土木事務所河川砂防課 技師  
巨大災害過程研究領域／情報学研究科  
社会情報学専攻 2020年3月 修士課程修了



います。

私が働き始めてからでも、大きく報道されていないだけで、大雨によって護岸や橋が崩れる現場をたびたび目にしてきました。みなさんの住んでいる地域もニュースにならないだけで、意外と多くの被害が出ているかもしれません。

災害の被害を少なくするためには地味な積み重ねも多いです。しかしながらそれを避けていっては、被害は減っていきません。地味だけれど、地道に進めていくことが私の仕事です。



大雨による被害の確認

## アカデミア

### —— 興味の赴くまま動いた結果……

現在、私は洪水や津波のリスクと共存する都市について、フィールド研究や数値モデルを使った研究を仕事にしています。大津市出身で琵琶湖の近くに住んでいたため、小さい頃から水の問題に関心がありました。小学生だった2001年に大津で世界湖沼会議が開催されたときは同級生数名で小学校の先生に引率してもらい、海外からの参加者と交流しました。そこで初めて研究者という職業の存在を知りました。中学から大学までは親の勧めで関東の一貫教育校に行き、良い先生との出会いによって川の自主研究を始めました。昭和以降に手書きで記録された荒川水系の水質データを電子データ化して統計分析をしたり、出水後の河床変動を測量したりといった研究活動が楽しく、大学院に行くことにしました。修士課程で京大に来てからは津波避難の研究に取り組みました

中居 楓子

名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻環境都市分野助教  
巨大災害研究センター災害情報システム研究領域／情報学研究科  
社会情報学専攻 2017 年 3 月博士後期課程修了



が、それまでの我流の研究では欠けていた勉強や自分の力不足を知り、一度大きな絶望を味わいました。それでも友人との自主的な勉強会や、見捨てずに指導くださった防災研の先生のおかげで学位を取ることができました。その後は幸運にも現在の職場に就職が決まりました。名古屋に来て5年、新たな世界を広げつつ、今も水に関わる研究の仕事を続けています。



中部地方の研究者・技術者による木曽川研究会にて、岐阜の鮎漁の見学

## Web系エンジニア

### —— インターン経験と気象研究

私は、今年の4月からfreee株式会社という会社に就職予定です。現在は修士課程で気象系の研究室に在学中で、気象の数値シミュレーションを研究しています。つまり、研究とはあまり関係のないweb系のエンジニアとして働くことになります。気象の専門的な知識を会社で使うことはないでしょうが、自分が作った（コーディングした）ものが動いた時の嬉しさや達成感は、現在のシミュレーション研究とほぼ一緒だと思っています。

内定が出たのが昨年の2月初めで、4月から年末までは週2回、インターンとして東京のチームで働いていました。現在住んでいる場所は京都なので、もちろん対面ではなくフルリモートという形です。就職予定の会社では東京本社と大阪支社のどちらでも勤務可能なので、このまま関西に残るか悩みましたが結局東京に行くことにしました。宇治

岡崎 康平

水象・気象災害研究部門災害気候研究分野／理学研究科  
地球惑星科学専攻M2（在学中）



キャンパスには、理学研究科の気象系の研究室が2つあり同期が計5人いるのですが、私以外は、気象系の分野に就職・進学します。気象から離れることになり少し寂しいですが、頑張ってやっていこうと思います。



北海道での気象学会に参加

## ●災害レビュー



## 韓国ソウル群集事故〈梨泰院惨事〉 —— 事故現場からのレポート

山 泰幸  
YAMA Yoshiyuki  
巨大災害研究センター  
歴史災害史解析研究領域 客員教授



韓国の首都ソウルの梨泰院駅。1番出口に向かう階段の登り口の両壁には、犠牲者へのメッセージが書かれた紙が貼られている。1番出口の周囲の柵にもメッセージがびっしりと貼られており、花束や鉢植えの花が供えられ、ビニールシートで覆われている（写真1）。

2022年10月29日の夜、ハロウィーンでにぎわう梨泰院にて群集事故が発生した。死者は158名、多くが20代から30代の若者であり、女性の死者は100名以上、負傷者は約200名の大惨事となった。その後、自殺者1名を含む、死者159名となっている。筆者は約一ヵ月後に事故現場を訪問する機会を得た。

1番出口を出ると、すぐに事故現場となった路地がある。これほど多くの人々が犠牲になったことが信じられないほど、とても狭い路地である（写真2）。路地入口の左側は商店が軒を連ねており、入口の右側の壁は、メッセージが書かれた紙で埋め尽くされており、ほとんどが付箋紙に手書きされており、メモ用紙やノートをちぎって書かれたものもある。路地の反対側の入口から見ると、大通りに向かって、けっこう急な下り坂になっている。

メッセージは韓国語だけでなく、英語や中国語をはじめ、さまざまな外国語で書かれている。外国語によるメッセージは、犠牲者の遺影であろうか、写真が添えられているものが多い。梨泰院は外国人が多く居住する地区であることや、外国人の犠牲者が26名、14カ国に上ったことが影響しているようだ。日本語のメッセージには、「安らかにねむりください」「ご冥福をお祈りします」などが見られた。事故発生から、まだ一ヵ月後ということもあり、現場は重々しい雰囲気包まれていた。

筆者は予てより「象徴的復興」という考え方を提唱している。人々が復興を実感できなければ、復興は達成できず、それには復興を成し遂げる立場の者が、人々の間で醸成されつつある復興感にかたちを与えて象徴的に表現する「復興儀礼（祭り）」を適切なタイミングで実施しなければならない、というものである。これには事故が起きないようにしっかりと警備体制を敷くことが含まれることは言うまでもない。

今回のハロウィーンは、3年ぶりに屋外でのマスク解除と営業時間制限がなくなり、コロナ禍での長い自粛と抑圧の状態から解放され、若者にとってコロナ禍からの復興感を実感できる機会となった可能性が高い。

コロナ禍で自粛されてきた祭りやイベントが3年ぶりに各地で再開されているが、その社会的な意味は、毎年繰り返される場合とは、相当に異なっているはずだ。今回は、そのような状況において、通常の祭りとは異なる「主催者がいない」とされるハロウィーンという現代的な祭りが行われている。事故の背景には、二重の例外的状況がある。

事前からこのような危険性が懸念されていたにもかかわらず、警察の警備体制や行政の対応が不備であったことが次第に明らかにされつつある。今後さらに、再発防止に向けて、細心の注意を払う必要があるだろう。



写真1 梨泰院駅1番出口



写真2 路地の入口

## 若手研究者から ⑱

防災研の将来を担う、准教授・助教・研究員・博士課程学生ら  
若手研究者による研究を紹介します。



山本 浩大

YAMAMOTO Kodai

水象・気象災害研究部門  
気象水文リスク情報  
(日本気象協会)研究分野  
特定助教

## 防災・減災に向けた 国内外の洪水氾濫予測の高度化

近年、国内では豪雨が発生し、日本各地で中小河川が越水・決壊し甚大な人的・経済被害を及ぼしています。こうした洪水被害を軽減するためには、河川の堤防整備等の治水対策だけでなく、避難情報などの防災情報の強化を進めていく必要があります。国や都道府県は、水位が避難開始の目安となる基準を超えた時に避難勧告を実施します。平成30年から従来は水位観測が実施されていなかった中小規模の支川や上流の河川に水位観測所が設置され、中小河川の水位観測網が充実されています。一方で、短時間に強い雨が発生すると中小河川の水位は短時間に急激に上昇し、避難に要する時間が十分に取れないといった問題があります。現在、国が定めた経済的に重要な河川の観測点を対象に数時間先までの洪水予測が実施されていますが、中小河川も含めた河川水位の水位予測が必要とされています。

私達の研究グループでは、河川流域を対象に降雨流出過程を物理的に説く数値モデル（以下、降雨流出モデル）を用いた洪水予測システムの開発を行っています。具体的には、降雨予測情報を降雨流出モデルに入力し、中小河川を含めた河川流域の任意地点での水位の予測情報を創出しています。現在、京都府が洪水予報を現況でおこなっている鴨川流域と桂川上流域を対象に河川水位の予測の高度化の研究を行っています（図1）。特に、危機管理水位計が設置されている河川の上流部や支川に着目し、6時間先の河川水位の予測を試みています。本研究は、京都府と京都大学の共同研究として実施しており、水位の予測精度を高度化するだけでなく、

避難のための時間を考慮した水位予測システムの評価を行っています。一方で、国外を対象とした気候変動の研究も行っています。インドネシアの大流域の低地にある熱帯泥炭地では気候変動で浸水が頻発化するとアブラヤシプランテーションの農地の立地が変化します。そのため、洪水が農地の立地に与える影響を考慮した土地利用の予測と気候変動によりアブラヤシが被る洪水被害の評価を行い、泥炭地における気候変動の適応策について施策しています。今後、国内外の流域を対象に洪水予測の高度化と気候変動影響評価の研究を行うとともに、新しい防災気象情報と気候変動の適応策に向けた洪水リスクの情報を創出し、防災・減災に貢献する研究者を目指しています。



図1 京都府の河川と洪水予報河川の桂川流域(黄色、左)と鴨川流域(黄色、右)



## 言葉で旅する情の国イタリア



伊藤 恵理  
ITO Eri  
社会防災研究部門  
地震リスク評価高度化研究分野  
特定助教

Bonjorno! イタリアはローマにあるINGVに10月末より5か月滞在することとなりました。これまでの滞在中に心に響いた現地の人々の言葉で、イタリアを旅してみてください。

### その1「人間だから間違える」

ローマに到着した夜、ホテルの部屋で寝ていた所にトイレの修理工が入りかけたというハプニングが起きました。その後同僚がホテルへ謝罪を求めた時のオーナーの言葉です。それを言える土壌があるこの国の寛容さを、衝撃と共に初日に垣間見た気がしました。



イタリアでそれなりに普及しているらしい姿勢矯正チェア。研究者の悩みは世界共通のようです。長時間座るのは結構辛いです。



最後にINGV内のプレゼベ（キリスト生誕場面の模型）を。職場にこれがあることが、ヨーロッパにいてることを実感させます。クリスマス前のため、まだイエス様はいらっしゃいません。



勤務先のINGV (Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia)。地震時の建物被害に関係する地盤の特性に関する研究を行うべく滞在しています。アパートより徒歩30分はいい運動です。

### その2「ここでは全てがunexpected, 全てがflexible」

交通渋滞や行政手続きの遅れで予想外の出来事で溢れているのがローマ。だから予定は立てず予想外を許し、受け入れて対応していくのだと同僚。そんなローマで、備えることの極みである防災についての考えを聞くのは今後の課題です。

### その3「1人じゃないよ」

インフラが充実していない分大事なのが人と助け合うことだと、同僚が自身の経験を踏まえて噛みしめるように言った言葉です。実際勤務初日から多くの研究者が私のことを気にかけてくれており、温かさに感謝しかありません。

ここで感じた寛容さと温かさを日本まで持って帰れたらと思う日々です。

以上、ローマより伊藤がお伝えしました。

## 初の海外渡航で感じた日本との違い



藤田 翔乃  
FUJITA Shono  
巨大災害研究センター災害情報システム研究領域/  
情報学研究科社会情報学専攻D2

2022年10月10日～16日にかけてノルウェーのクリスチャンサンで開催されたITDRR2022という国際学会に参加しました。人生初の海外渡航であったため、長時間のフライトや海外の景色、ご飯など全てが新鮮に感じました。西洋的な建物と石畳の道路で構成された街の中心部はとても綺麗な景観でした。

また、現地の方の生活を見てたくさんの驚きがありました。レストランやショップの店員さんは雑談しながら音楽を聴きながら、楽しそうに働いていました。マニュアルに沿って忙しく働く日本人とは真逆の印象を受けました。それでいて、物価は体感で日本の2倍くらいで経済力の高さも感じました。

学会発表では、質疑応答での英語が聞き取れず悪戦苦闘しました。出会った

海外の若手研究者になぜ英語が話せるのかと尋ねると、多くの方が「学校で勉強しただけ」、「母国では英語を日常生活でも使う」と答えていました。日本と海外の英語教育や使用環境に大きな違いがあると感じました。英語でのコミュニケーションに苦手意識がある僕は、相手の考えを正確に汲み取ることや議論での積極的な発言ができず、より英語の必要性を感じました。次の国際学会ではより円滑な議論をしたと思いました。



クリスチャンサンの中心部



集合写真



発表風景



ソーシャルイベントのクルージング

# 新スタッフ紹介

とうげ よしや  
**峠 嘉哉**

気候変動リスク予測・  
適応研究連携研究ユニット  
特定准教授



林野火災や内陸湖の縮小など、主に乾燥や水不足に関する研究を数値解析と現地観測の両輪で進めています。また、3Dプリンター等で低価格の気象測器の開発を進めています。進行する気候変動の予測・観測（記録）の研究を深めていきたいと考えています。

出身地 熊本

趣味 ソフトボール・野球



エチオピアの農地  
での土壌水分観測

はた まき  
**畑 真紀**

火山活動研究センター  
地殻流体研究領域  
助教



火山・地震活動の理解に重要な沈み込み帯システム、および、カルデラ火山のマグマシステムを電磁気学的な観点から解明することを目指した研究を行っています。宇治キャンパスで修士・博士後期課程をお世話になったので、恩返しができるよう頑張りたいと思います。

出身地 京都府宇治市

趣味 スポーツ観戦（野球）、模型（飛行機・電車）、手芸・粘土細工、水彩画



カルデラ内から  
阿蘇外輪を臨む

## DPRI掲示板



土佐 尚子 特定教授・  
Yunian Pang 特定助教・  
中津 良平 特任教授 ほか

日本燃焼学会  
2022年「美しい炎」の写真展優秀作品賞  
受賞作品名「炎の歌を聞く8月の杜若」  
[2022年11月23日]

佐山 敬洋 准教授

2022年度日本気象協会岡田賞  
[2022年9月28日]

■受賞理由  
「降雨流出氾濫(RRI)モデルにより河川  
氾濫予測技術を向上させた功績」

牧 紀男 教授

令和4年  
防災功労者防災担当大臣表彰  
【個人の部・防災体制の整備】  
[2022年9月15日]

■受賞理由  
「兵庫県、本邦の防災・減災対策の  
充実への多大な貢献」

ショーバックジェイコブ英輔

(地震防災研究部門耐震基礎研究分野／工学研究科都市社会工学専攻M2)、

栗間 淳

(地震防災研究部門耐震基礎研究分野／日本学術振興会特別研究員PD)、

後藤 浩之 准教授、澤田 純男 教授ほか

2022年土木学会構造工学委員会 AI・データサイエンス論文賞  
[2022年12月1日]

■受賞論文  
「深層学習と数理モデルの組み合わせによる土の繰返しせん断特性の表現法」

佐脇 泰典

(地震災害研究センター／  
理学研究科地球惑星科学専攻D3)

2022年度  
日本地震学会学生優秀発表賞  
[2022年11月]

■受賞題目  
「日向灘海底地震観測記録から得られ  
る自己相関関数の時空間的特徴」

伊藤 駿 (気象・水象災害研究部門沿岸災害研究分野／  
工学研究科社会基盤工学専攻M1)、  
森 信人 教授、志村 智也 准教授、宮下 卓也 助教

2022年度  
土木学会海岸工学論文賞  
[2022年11月8日]

■受賞論文  
「可能最大高潮モデルを用いたHighResMIP実験にもとづ  
く日本沿岸の高潮リスクの将来変化予測」

西沢 貴志 (地震災害研究センター内陸地震研究領域／理学研究科地球惑星科学専攻M2)

日本測地学会第138回講演会学生優秀発表賞

[2022年10月7日]

■受賞題目 「島弧の高重力異常と沈み込み帯の各種パラメータとの関係」

尾崎 亮介 (流域災害研究センター都市耐水研究領域／工学研究科都市社会工学専攻M1)

第41回日本自然災害学会令和4年度学術発表優秀賞

[2022年9月18日]

■受賞発表 「淀川大堰周辺における津波来週時の有害物質拡散による取水影響予測」

## >>> 人事異動

\*教授・准教授・助教・職員(それぞれ常勤・特定・特任)について掲載。名称付与は新規のみ掲載。

[2022年8月31日]

社会防災研究部門地震リスク評価高度化(寄付研究部門)研究分野 ZHU, Chuanbin 特定助教/退職

[2022年10月1日]

地震防災研究部門地震発生機構研究分野 山田 真澄 准教授/昇任←同助教より

[2022年10月31日]

巨大災害研究センター国際災害情報ネットワーク(客員)領域 DANDOULAKI, Miranta 客員教授/任期満了

[2022年12月1日]

気候変動リスク予測・適応研究連携研究ユニット

峠 嘉哉 特定准教授/採用←同特定研究員より

火山活動研究センター地殻流体研究領域

畑 真紀 助教/採用

流域災害研究センター沿岸域土砂環境研究領域

BASIR, Noerdin 短期招へい講師/採用

＼ 研究室の実態と学生の本音を深掘り! /

# 研究室紹介

学生が学生に聞いてみた

今回の研究室と執筆者

社会防災研究部門防災技術政策研究分野  
(佐山研究室)

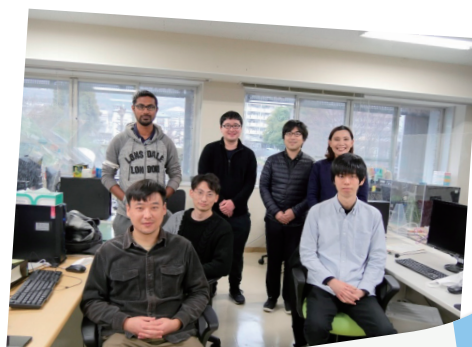
## ——どんな研究室ですか？

**Sさん** 平和そうな雰囲気がいいなあとってこの研究室を選びました。解析が中心なのでリモートでも仕事がしやすいです。ゼミと先生との打ち合わせ以外は、時間の使い方は自由裁量です。ゼミメンバーの半分以上が留学生で、おしゃべりもゼミも英語です。学部生のうちは大変ですが、英語力はアップします。

## ——どんな研究をしていますか？

**Yさん** RRIモデルという洪水予測モデルを皆で分担して作っています。

**Sさん** 留学生は、自分の国で起きている問題にこのモデルを適用できるかを検討する人が多いですね。先生は学生の興味とモデルがかみ合うようにテーマを工夫してくれます。



きょう学生室に  
在室していた皆さんです



広々とした学生室。  
本棚は洋書がずらり。



全国リアルタイム洪水予測用の  
PC7台が別室で静かにフル稼働中

## 編集後記

この編集後記を書いているのは、卒論・修論まっさかりの時期で、防災研学生の皆さんが、立派に巣立っていくところを見るのはもうすぐです。卒業間近、真剣に研究に取り組む学生の皆さんを見ているうちに、防災研の卒業後にどのようなキャリアを歩んでいくのか、中高生を含め防災研内外のいろいろな方々に知っても

らう機会が実は少ないのでは、と気づきました。

そんなわけで、今回は「防災研の人々とその未来」にフォーカスした特集です。防災研での研究生活やその後の活躍を通して、キャリアパスの選択肢の多さや皆さんのルーツともいえる熱い思いが伝わってくると思います。  
(廣井慧)

「DPRI Newsletter」のほかに、こちらからも防災研の情報がご覧になれます。



ホームページ  
<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>



YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/channel/UCQ22ABWTJkxolMXLAnLKMLQ/>



Facebookページ  
<https://www.facebook.com/DPRI.Kyoto.Univ>



メールマガジン (登録ページ)  
[https://dpriicon.dpri.kyoto-u.ac.jp/mailmagazine/mailmagazine\\_user.php](https://dpriicon.dpri.kyoto-u.ac.jp/mailmagazine/mailmagazine_user.php)



Twitter  
<https://twitter.com/dpريت>

京都大学防災研究所 Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

編集／京都大学防災研究所 広報・出版専門委員会、広報出版企画室 発行／京都大学防災研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 Tel: 0774-38-3348 (代表) 0774-38-4640 (広報)

ご意見・ご要望はこちらへ ..... [toiawase@dpri.kyoto-u.ac.jp](mailto:toiawase@dpri.kyoto-u.ac.jp)

2023年1月発行